岩木山を考える会

２０２０年度総会議案書

（確定版）

金枝壽孝氏撮影

日時：2020 年４月５日（日）13:30～15:30

場所：弘前市民会館中会議室（２階）

2020年度岩木山を考える会総会次第

日　時　：　4月5日（日）13:30～15:30

場　所　：　弘前市民会館中会議室（2階）

次　第　：

13:30　　司会による開会宣言

　　　　会長あいさつ

　　　　議長選出

13:40　　議事

　　　　第1号議案　　2019年度活動のまとめ

　　　　第2号議案　　2019年度収支決算報告

　　　　会計監査報告

　　　　第3号議案　　2020年度活動方針（案）

　　　　第4号議案　　2020年度予算（案）

　　　　第5号議案　　体制（2020～2021）（案）

14:30　　質疑応答・意見交換

15:25　　議案採択

15:30　　閉会宣言

お疲れ様でした。お気をつけてお帰り下さい。

第1号議案　2019年度活動のまとめ

1. 活動日誌、岩木山をめぐる情報・報告

2019年

4月　1日（月）　弥生ネット第9回幹事会（小堀、竹浪）
4月　2日（火）　第12回幹事会（小堀、金枝、齋藤、藤原、竹浪、武尾、宮川）
4月　5日（金）　弥生ネットで弘前市長表敬訪問（5名（小堀、竹浪）
4月　6日（土）　長平コースを西法寺森まで登った。リフトで中間迄運んでもらい、そこからスキー。ゴンドラの上方の北向き急斜面は雪崩跡のデブリが出来ていた。途中の森林帯あたりから上は氷と雪混じりの圧雪。西法寺森の北側斜面に大きな雪の崖が出来ていた。（竹浪）
4月　7日（日）　2019年度総会（出席者17名（小堀、阿部、金枝、齋藤、藤原、佐藤、竹浪））
4月15日（月）　公園緑地課と観察会日程調整。夏→6月23日（日）、秋→9月21日（土）となった。
4月26日（金）　会報発送作業（小堀、斎藤、藤原、武尾、竹浪）
5月　7日（火）　2019年度第1回幹事会（小堀、金枝、齋藤、竹浪、武尾、宮川）
5月11日（土）　岩木山を考える会 HP を更新（19年総会議案書・資料、会報78号掲載）
5月14日（火）　岩木総合支所長と面談（小堀、竹浪）
5月20日（月）　ゴマシジミ保護立看板設置（小堀、花田、藤原、金枝）
6月　3日（月）　弥生ネット幹事会（小堀、阿部、竹浪）
6月　4日（火）　第2回幹事会（小堀、金枝、齋藤、藤原、竹浪、宮川）
6月17日（月）　百沢登山道調査（金枝、竹浪、（小堀））
6月18日（火）　弥生スキー場跡地観察会下見（阿部、松本、石戸谷、齋藤、竹浪、弘前市4名）
6月20日（木）　弥生スキー場跡地植物調査（松本、石戸谷、座頭石の会2名、竹浪）
6月23日（日）　岩木山講座①「弥生スキー場跡地観察会」（市：親子で自然観察会 in 弥生スキー場跡地）
（親14名、子12名、弥生ネット10名、弘前市5名総勢41名）
同日、生物調査（阿部）
6月28日（金）　弥生スキー場跡地毎木調査（齋藤、竹浪）
6月26日（水）　弥生スキー場跡地ホタル調査（小堀）
7月　1日（月）　弥生登山道調査（竹浪（小堀））
7月　2日（火）　第3回幹事会（小堀、齋藤、藤原、竹浪、武尾、宮川）
7月　9日（火）　赤倉登山道調査（竹浪、（小堀））
7月10日（水）　嶽農村公園ススキ刈り払い作業（小堀、花田、金枝、齋藤、竹浪、宮川）
来年から、作業者に飲み物を提供することにした。
7月10日（水）　岩木山環境保全協議会総会（小堀、竹浪）
7月12日（金）　弥生ネットが弘前市公園緑地課と懇談会（小堀、竹浪）
7月14日（日）　岩木山エコプロジェクト（岩木山観光協会主催）（花田）
7月17日（水）　弥生ネット幹事会（小堀、竹浪）
7月24日（水）　岩木山弥生登山道調査（8～9合目崩落危険個所）
（弘大鄒青穎先生＋学生2、竹浪）
7月28日（日）　スカイラインを使ってミチノクコザクラを見に行った。錫杖清水付近はまだしっかりした雪渓が残っていた。種蒔苗代から上の登山道は階段の丸太がはずれて崩れた箇所があった。（藤

原）

8月　6日（火）　第4回幹事会（小堀、金枝、齋藤、藤原、竹浪、武尾、宮川）

8月　8日（木）　弘前市観光課へ環境保全協議会への当会の要望の件について話し合い（小堀、金枝、藤原、竹浪）

8月　8日（木）　ゴマシジミ観察会宣伝のためマスコミ回り（小堀、金枝、藤原）

8月12日（日）　大鳴沢源頭に花を見に、会員3名（藤原竹二、裕貴子、阿保）で行ってきました。スカイライン利用。8合目（10：15発）→山頂→大鳴沢源頭。帰りはリフト利用（リフト山頂駅へ戻ったのは14：45）。

・残雪は2～3m四方ほど。

・ミチノクコザクラ、エゾノツガザクラが咲き誇り、イワウメ、ウコンウツギ、ミヤマキンバイに出会えました。

・山頂から赤倉道へは要刈り払い箇所あり。

・お盆シーズンで親子連れで山頂まで登る家族多数（幼児も）。県外ナンバーの車多数。（藤原）

8月17日（土）　津軽保健生協の班レクの下見のためつがる市へ。（10月に、「つがる市の自然と歴史を訪ねる」旅を予定）「平滝沼」はすっかり水不足状態。→地元の女性が、「以前はミミカキグサが毎年このシーズン見られていた」（今年はどうか、と見に来た→なし）

※30年くらい前は、このあたりの湿原は、とてもみずみずしかった記憶があります。（藤原）

8月25日（日）　岩木山講座②「岩木山嶽ゴマシジミ観察会」9名（小堀、金枝、藤原、齋藤、阿部）

8月27日（水）　弥生ネット幹事会（小堀、阿部、竹浪）

8月28日（水）　長平湿地を見てきた。サワギキョウが咲いていた。花はとても良かった。（花田）

9月　3日（火）　第5回幹事会（小堀、金枝、竹浪、武尾、宮川）

9月10日（火）　長平湿地調査（竹浪）

9月15日頃　赤倉沢最終堰堤のかさ上げ工事中。更に、堰堤の下側に副堤を作る予定とのこと。さらに上流から鬼の土俵につながる赤倉登山道沢道を工事関係者がストップをかけていたため自分は戻ってきた。津軽森林管理署に電話して、登山道入り口でそのことを明示すべきではないかと述べたところ、管理署からは、現場の担当者に話して通行を認めるよう指導する旨の回答があった。（花田）

9月17日（火）　弥生跡地観察会下見（阿部、竹浪、石戸谷、松本）

9月20日（金）　石切沢観察会下見（小堀、金枝、花田、竹浪）

9月21日（土）　弥生スキー場跡地観察会（小堀、阿部、竹浪、松本、阿部玲）

9月26日（木）　会報発送作業（於、市民参画センター）（小堀、土岐、金枝、藤原、武尾、竹浪）

9月30日（月）　仙台気象台より電話。岩木山焼止の気象観測施設（傾斜計）は9月14日に撤去完了した。そして今日から百沢スキー場リフト終点施設付近に新たな施設の設置工事を始めるとのこと。10月中には終了するとのことだった。（竹浪）

10月　1日（火）　第6回幹事会（小堀、金枝、花田、藤原、竹浪、武尾）

10月　5日（土）　岩木山講座③「石切沢観察会」10名（小堀、阿部、土岐、武尾、金枝、竹浪）

10月15日（火）　横浜国大の若松先生と言う方より、岩木山スカイライン8合目でオオシラビソ（アオモリトドマツ）を発見したとのメールが届く。

10月15日（火）　東北自然保護の集い対応レポート検討（小堀、阿部、竹浪）

10月22日（火）　アオモリトドマツを確認しに岩木スカイライン終点へ（小堀、阿部、竹浪）

10月26～27日（土、日）第40回東北自然保護の集い（於、岩手大沢温泉）（阿部、阿部玲、金枝、竹浪）
10月29日（火） 弥生ネット幹事会（小堀、竹浪）
10月30日（水） アオモリトドマツを確認しに岩木スカイライン終点へ（阿部、金枝、竹浪）
11月 2日（土） 弥生跡地野鳥調査（小堀、土岐）
11月11日（月） マスコミに第4回岩木山講座の宣伝行動（小堀、金枝、藤原）
11月12日（火） 第7回幹事会（小堀、阿部、金枝、齋藤、藤原、竹浪、武尾）
11月22日（金） 弥生跡地毎木調査（齋藤、竹浪）
11月23、24日 岩木山写真展（岩木文化センターあそべーるにて）
11月12日（火） 第7回幹事会（小堀、阿部、金枝、齋藤、藤原、竹浪、武尾、荒川）
11月15日（金） ゴマシジミ看板撤去の件で、岩木山観光協会の小山事務局長と協議（竹浪）
11月17日（日） 岩木山講座④「廻堰で渡り鳥と岩木山を観る」11名（小堀、土岐、武尾、竹浪）
11月22日（金） 弥生跡地毎木調査（齋藤、竹浪）
11月23日（土） 岩木山文化祭・岩木山写真展見学（齋藤、竹浪）
11月25日（月） 「白神山地世界遺産地域の管理に関する懇談会」の開催案内が届く
11月27日（水） 県自然保護課に岩木山スカイライン8合目でのアオモリトドマツ発見情報を伝える。
12月 2日（月） 弥生ネット幹事会（小堀、阿部、竹浪）
12月 3日（火） 第8回幹事会（小堀、阿部、金枝、藤原、竹浪、武尾）
12月21日（土） 会報第50号作成（小堀、土岐、藤原、金枝、武尾、竹浪）

2020年

1月 4日（土） 赤倉沢最終堰堤迄スキーで遡行。行きは沢筋を歩いてみたが、雪が少なく、かん木と堰堤に阻まれ難儀した。帰りは工事用道路を通って楽に帰ってこられた。不動の滝手前に張られている大注連縄は、2019年が最後となるようだ。（「赤倉山神社神職のブログ」）（竹浪）
1月 7日（火） 第9回幹事会（小堀、阿部、金枝、藤原、竹浪、武尾、荒川）
1月18日（金） 岩木山弥生登山道を8合目付近までスキー山行（竹浪）例年の半分の積雪。森林限界まではブッシュが出ておりスキーには不向きだった。弥生駐車場（6時）→耳成岩手前7．5合目付近（12時）→弥生駐車場（14時半）（竹浪）
1月31日（金） 白神山地世界遺産地域の管理に関する懇談会（小堀、武尾、藤原、竹浪）
2月3日（月） 岩木山嶽登山道を9合目まで山行。例年の3分の1の積雪。前線通過で猛烈なブリザードが吹き付けていた。気温マイナス6℃、体感温度マイナス20℃以上。厳冬期そのままの環境だった。入山ポストが冬期間移動されていなかった。小雪だったのでかろうじて入れることは出来たが・・・市に注文を付けておく必要あり。嶽駐車場（4時過ぎ）→8合目ターミナル（6時半）→9合目リフト終点（8時）→撤退→嶽駐車場（11時）（竹浪）
2月 4日（火） 第10回幹事会（小堀、阿部、金枝、藤原、竹浪、武尾）
2月7～9日 第26回写真展「私の岩木山」 127名
2月12日（水） 嶽登山道から登頂 嶽駐車場 5:30～8 合目ターミナル 9:00～9 合目リフト終点 10:15～登頂 11:45～駐車場着 14:55 積雪により登山ポストが埋まり計画書を入れることが出来なかった。例年の積雪状況とは大きく違い、鳳鳴避難小屋の入口前が大きな吹き溜まりとなっており、中には全く入ることが出来なかった。頂上は奥院の屋根がほぼ隠れてしまうほどの積雪で、例年よりは積もっていたように思えた。しかし雪の表面はもなかの皮のような状態で、頂上付近ではしばしば雪を踏み抜いた。（竹浪）
2月22日（土） 岩木山赤倉沢大注連縄を見に行った。スキー使用。行きは工事作業道路を歩き、帰りは途

中から沢をそのまま下りて赤倉神社の裏手に出た。注連縄は雪の下になっているのか見ることは出来なかった。沢の両岸急斜面から崩れた雪がところどころデブリを作っていた。大石神社 8:00～大注連縄付近 11:20～大石神社 13:20 （竹浪）

2月25日（火） 弥生ネット幹事会（小堀、竹浪）

3月 3日（火） 第11回幹事会（小堀、齋藤、藤原、武尾、金枝、竹浪）

3月21日（土） 岩木山焼止避難小屋調査（竹浪）

3月22日（日） 岩木山講座⑤春の雪上観察会 12名（花田、金枝、藤原、竹浪）

3月23日（月） 弥生ネットが弘前市公園緑地課と懇談、市5名、弥生ネット4名（竹浪）

2. 2019年度のまとめ

**（1）岩木山講座・観察会を一般市民の参加のもと行う
座学講座を検討する。**

【まとめ】

今年は年間を通じて5回の岩木山講座を開催しました。計画は座学も含め6講座でしたが、座学の講師が決まらず今年度は見送りました。講座を通じて、岩木山とその周辺の豊かな自然を満喫できたように思います。講座を実施するにあたり、万が一の事故対策として年間の団体保険に加入しました。

岩木山講座① 弥生スキー場跡地観察会

（弘前市「親子で自然観察会 in 弥生 スキー場跡地（弥生の森）」と兼）

日程 6/23（日）10時～12時

集合 弥生いこいの広場駐車場

参加者 41名（親14名子ども12名、計26名、弥生ネット10名（岩木山を考える会8名、コープあおもり2名）、弘前市5名）

様子 穏やかな天候に恵まれた。観察は昨年の秋から実施した平坦で歩きやすいコース。全員に生きものさがしリーフを渡し、2班に分かれてスタート。参加者はそれぞれネットや虫かごを持参。集まるや否や子どもたちはカナヘビを捕まえていた。オートキャンプ広場ではミヤコグサ、アリなどを観察。沢に入りニホンザリガニやヤゴを捕獲。林の中ではリボンを頼りに探検。セミの抜け殻を発見。その後、クワの実を食べたり、シラガタロウやアリの巣をみつけたり、オトシブミの中に入っている幼虫を観察したりと、また阿部幹事が仕掛けておいたトラップにもシデムシなどが入っていて、様々な発見に目を輝かせていた。

12時に終了、全員ハイランドハウスの屋根の下でコープあおもりの方々が作ってくれた豚汁を楽しんだ。昼食後、標本づくりの希望者を募ったところ、2組6名（親3名、子ども3名）が参加。講師は阿部幹事。阿部玲、石戸谷、齋藤、竹浪も参加。公園緑地課の葛西さんも残って下さった。ハイランドハウスの2階の一室を会場に、14時過ぎまで標本づくりの仕方を教わり、実際に作ってみた。出来た標本は持ち帰ってもらった。

岩木山講座② 岩木山嶽ゴマシジミ観察会

日程 8/25（日）10時～12時

集合 嶽農村公園駐車場

参加者 9名（会員8名、一般参加1名）

取材　アップルウェーブ（小堀会長対応・・・生放送された）、東奥日報（参加幹事に取材）

様子　葦やススキの刈り払いが功を奏してか、何匹ものゴマシジミをゆっくりじっくり観察できた。今回は不思議なことに、私たちを警戒していないような（人間側の勝手な感想ですが）、蜜をゆっくり吸ったり、花から花へと移動したり、観察地を羽ばたいていた。

刈り払い時に残しておいたワレモコウに花が咲き、そこに蝶が来ていた。

アップルウェーブが取材に来て生放送された。東奥日報記者も取材に来た。

岩木山講座③　石切沢観察会と秋のキノコ汁

日程　10/5（土）10時～14時

集合　百沢スキー場駐車場

参加者　10名（会員4名、幹事6名）

様子　スキー場駐車場集合。開始前に駐車場の隣の空き地で土岐さんがキノコを大量に収穫。10時開始、阿部先生の解説を交えながら進む。花が枯れていて種がよく分からなかった。実やキノコの観察が中心となった。途中アミタケ（イグチ）がたくさん生えており、収穫に忙しい人もいた。男性ばかりだったので、2か所の急坂はロープを張らなくとも大丈夫だった。アケビもあちこちに実が見られ収穫する人もいた。12時に小森山入口の集落に到着。小堀・金枝の車で舞鶴荘へ移動。武尾さんらが準備してくれたキノコ汁を食べながら歓談。大館から参加された木村さんからポポーの提供があった。14時過ぎに終了。

ハチに刺された人がいた。ポイズンリムーバーは持参必要。

岩木山講座④　廻堰で渡り鳥と岩木山を観る

日程　11/17（土）10時～12時

集合　鶴田廻堰駐車場

参加者　一般5名、野鳥の会弘前支部2名、幹事4名（小堀、武尾、土岐、竹浪）　計11名

観察場所　新和小学校西側田園、砂沢ため池（廻堰に野鳥の数が少なく遠いということで急きょ観察地点を変更）

様子　晴天に恵まれたが風が強かった。田んぼではハクチョウ、マガン、ハクガン、シジュウカラガン、ヒシクイ、ミヤマガラス、コクマルガラス、砂沢ため池ではオナガガモ、キンクロハジロ、カワアイサ、カワウなどを観察できた。珍しいハクガンが見られた。

岩木山講座⑤　春の雪上観察会～平沢周辺～

日程　3/22（土）10時～12時

集合　岩木運動公園駐車場

参加者　一般3名、会員5名、幹事4名（花田、藤原、金枝、竹浪）　計12名

取材　陸奥新報（3月24日に記事が掲載された。）**（資料1）**

様子　岩木山総合公園駐車場を出発し、平沢川と柴柄沢川沿いの雪原を巡る約2.5kmのコースで実施。スノーシュー、カンジキを履いて緩んだ雪の上を歩いた。目が膨らんだ柳の枝や枯木に巻き付いたフジ、ツルアジサイ、雪の上を懸命に動き回るセッケイカワゲラなどを観察して散策を楽しんだ。参加者からは、「平地だった疲れずに楽しめた」「少し距離が長かった」などの声が出されていた。取材に来た陸奥新報記者にカンジキを提供し一緒に歩いてもらった。

（2）写真展「私の岩木山」を例年のように行う

【まとめ】

日程　2月7日（金）～9日（日）
会場　NHK 弘前ギャラリー
入場者数127名（昨年154名）　1日目：43名（26名）　2日目51名（不明）　3日目33名（不明）
出展者13名　出展数60点（去年14名　出展数　68点）
様子　3日間共にあいにくの天候で来場者が少なく残念だった。会の活動年表掲示は25周年にふさわしかった。来場者への写真説明が好評だった。

1994年に発足した当会は、2019年で25周年を迎えることになりました。写真展では25周年を記念して年表「25周年のあゆみ」を作成し、写真や当時の新聞記事と共に掲示しました。**（資料2）**

（3）弥生スキー場跡地の観察と学習、調査活動を市民と協力し行い、長いスタンスでの岩木山研究の拠点とする。

【まとめ】

①　弘前市櫻田市長表敬訪問

4月5日に、当会が加入している弥生スキー場跡地を考える市民ネットワーク（以下、弥生ネット）幹事6名が市長を表敬訪問しました。当会からは小堀と竹浪が出席しました。

その中で次のような要旨を要請しました。**（資料3）**

ア）櫻田市長の手で、弥生跡地の保全と利活用の計画策定に取り組んでほしい。弥生ネットの結成のきっかけと、それ以来19年間この問題に取り組んでおり、この間、計画策定の動きが2回あった事。一つは相馬市長時代に弘前市と弘大が共同で策定した「弥生いこいの広場隣接地利活用方策検討事業報告書」、一つは葛西市長時代に策定した「弥生いこいの広場隣接地利活用市民懇談会検討方策報告書」。ところが二つ目の報告書に基づき、外部検討委員会を立ち上げる予定になっていたものが、立ち上げが行われず今日に至っている。櫻田市長は、この状況から一歩前に進めてほしい。
イ）我々はこの間弥生跡地の調査を行い貴重な動植物を確認してきている。この価値を生かして市民が利用できる環境を整備してほしい。
ウ）いこいの広場との一体的運用をしてほしい。
エ）跡地を一般市民へ開放してほしい。

櫻田市長からは、市民が自然に親しめるようにしていきたい旨の発言がありました。外部検討委員会が立ち上がっていないことについては経過を認識しておらず、観察会を重ねていくことが必要だとの認識が示されました。

②　弥生スキー場跡地アピールリーフの作成

市長表敬訪問での市長の認識を受けて、弥生スキー場跡地を市民にもっと知ってもらうためのアピールリーフを作成しました。作成したリーフは10月に弥生いこいの広場のハイランドハウスに置いていただきました。今後、年2回開催している弥生スキー場跡地観察会の宣伝も含めて活用する予定です。**（資料4）**

③　弥生跡地の自然調査活動

今年も、弥生ネットが2011年から継続している弥生跡地の毎木調査、動物調査、植物調査、野鳥調査を実施しました。毎年得られるデータは、弥生スキー場跡地の自然回復の状況を判断する上で貴重です。調査活動は岩木山を考える会会員が中心に進めています。**（資料5）**

6/9、小堀（会長）、土岐（監事）（いずれも日本野鳥の会弘前支部会員）の2名で野鳥調査を実施しました。観察された野鳥は28種。新たに観察された鳥は3種（キバシリ、コムクドリ、メボソムシクイ）でした。

6/20、松本（会員）石戸谷（会員）、竹浪（事務局）の3名で植物調査を行い206種を確認。2011年からの延確認種数は369種になりました。

6/23弥生跡地観察会当日、阿部（幹事）が動物調査を実施し、甲虫、蝶など23種を確認しました。

6/26小堀（会長）がホタル調査を実施しました。しかし、付近では確認できませんでした。

6/28に毎木調査を実施し、齋藤（幹事）、竹浪で計測。対象木30本の幹回りは1年間で平均2．2cm成長していました。

9/21秋の弥生跡地観察会で、阿部幹事がヤマトシジミを採集。この地では初めての発見です。

11/2に、秋の野鳥調査を小堀、土岐の2名で実施しました。観察された野鳥は17種類で、新たに観察された鳥はありませんでした。2013年からの7年間で65種が観察されています。

11/22に、秋の毎木調査を齋藤、竹浪の2名で実施しました。1年間の成長は1．8cmでした。

これまで調査活動は幹事中心に行ってきましたが、活動を継続していくためにも協力者が必要です。是非会員の皆さんのご協力をお願いします。今後、会報で日程をお知らせします。

④ 弥生跡地での観察会

弥生スキー場跡地での観察会は今年も2回実施しました。いずれも、弘前市が「親子で自然観察会 in 弥生スキー場跡地（弥生の森）」として実施しているもので、弥生ネット、岩木山を考える会が全面的に協力しています。

第1回は6/23（日）に、当会としては岩木山講座①として実施しました（6ページに記載）。第2回目は9/21（土）に実施しました。1回目の参加者は親子を含む41名。2回目は15名でした。両回ともに観察コースは平坦な場所で実施しました。「『弥生の森』生きものさがし」のリーフは去年から継続して参加者に配布をしていますが、市にノウハウや経験の蓄積をしていただくため、2回目からは当方がデータを提供し作成は弘前市公園緑地課に行ってもらうことにしました。2回の観察会を成功させるために、事前調査を実施しています。観察会終了後、コープあおもりの皆さんの協力で豚汁をいただきました。

2019年度から、観察会終了後に採取した昆虫の標本づくりに取り組んでみることにしました。阿部幹事（日本昆虫学会会員）が講師となり、蝶や甲虫の標本処理の仕方、ラベルの書き方などを1時間程度で行いました。参加者は6月には2組、9月には1組の親子が参加。みんな集中して講師の説明を聞き作業を進めていたのが印象的でした。初めての取り組みなので試行錯誤でしたが、9月には標本を保存容器に入れて持ち帰ってもらいました。

跡地の観察会は、冒頭にも記したように現在「親子で自然観察会 in 弥生スキー場跡地（弥生の森）」と銘打って実施しています。しかしこれについて年配の方から、自分も参加したいと思ったのだが「親子」が対象みたいなので申し込まなかった、という声が寄せられています。20/3/23に行われた市との懇談会でこの問題を提起し、20年度からは一般市民も参加できるような案内とすることで合意しました。懇談会では、観察会の回数の増加、安定的な体制の確立、広報活動の充実などの課題が話されました。

（4）岩木山の自然調査を進める

① 観察会や調査会を市民とともに行い、結果を記録に残す

【まとめ】

今年は5回の岩木山講座の実施、弥生跡地の自然回復調査と2回の観察会、嶽農村公園付近の刈り払いとゴマシジミの観察会、長平湿原調査を行い記録に残しました。（各項目に記載）

② 弥生跡地の生物調査を行う

【まとめ】

・ 8ページに記載

③ 長平登山道の湿地調査を継続して行う

【まとめ】

9/10（金）に竹浪事務局長が実施しました。心配された山側からの土砂の流入は進んでおらず、植物2種、動物3種を確認しました。今後、植物・動物に詳しい方の参加を期待します。**（資料6）**

④ 種名同定依頼の指導(植物・動物・昆虫)

【まとめ】

6月23日の弥生跡地生物調査、9月10日長平湿地調査などで捕獲した生物の同定を下記の専門家に依頼しました。

森　正人氏（環境科学大阪㈱、「日本のゲンゴロウ」著者
奈良岡弘治氏（日本蜻蛉学会会員？）
阿部　東氏（日本昆虫学会会員）

⑤ 会員による貴重な調査記録等を整理し次世代に伝える

【まとめ】

今年は、二つの調査記録をデータ化しました。**（資料7）**

① 岩木山にアオモリトドマツが群生していた時期の記録。
② 岩木山でキタゴヨウマツを確認したことの記録。（更に、詳しい場所等を記録しておく必要あり）

また、弥生跡地の草本、木本の種類について、阿部幹事が故三浦事務局長と共に調査したことがあり（2007年度あたり）三浦氏が残した資料から調べられないか、懸案事項となっています。

（5）岩木山の環境保全に寄与する

① 登山道等の整備を関係機関に働きかける

【まとめ】

（ア） 登山道調査の実施

今季は、百沢登山道、弥生登山道、赤倉登山道と3本の登山道調査を実施しました。いずれも、岩木スカイライン㈱のご協力を得て、無料でスカイラインとリフトを使わせてもらい、下りながら調査をしました。本来ならば、岩木山環境保全協議会としての合同調査活動があってしかるべきですが、そうはなっていません。

百沢登山道：6/17（月）　金枝、竹浪、（小堀）

車を岩木神社に置き、小堀氏の車で岩木スカイライン8合目まで送ってもらう。市の仲介で㈱岩木スカイラインから調査のためということで通行料無料にしてもらう。リフトも無料だったが強風のためリフトは動いておらず、登山道を9合目まで歩いて登る。鳥海山頂の気象庁地震計をチェック。アンテナは傾いていたが壊れた部分は修理されていた。

鳳鳴避難小屋チェック。飛ばされた屋根のトタンは張り直されていたため、雨漏り等はしていなかった。昨年中に修理をしたものと思われる。

百沢登山道は種蒔苗代がまだ半分雪に埋もれ、大沢も、種蒔苗代から100m ほど下から焼止の少し上までまだ雪渓が厚く残っていたため登山道チェックが出来ず。ただ、危険だと思われる箇所は雪が消えていたので、その部分を撮影してきた。断崖の脇を伝って歩くことになるため、鎖の取り付けなどが必要だ。焼止避難小屋に取り付けられていた看板が剥がれ落ちていた。

弥生登山道：7/1（月）　竹浪、（小堀）

車を弥生いこいの広場駐車場に置き、小堀氏の車で岩木スカイライン8合目まで送ってもらう。今回も通行料は無料。リフトが動いていたので、無料で乗せてもらい9合目へ。そのまま鳳鳴、山頂へと向かう。

山頂は、神社の屋根がはがれていた。またトイレの表のドアの下部が壊れかかっている。直さないと、下がバラバラになる可能性がある。

弥生登山道を下山。9合目までの急坂はまずまず大丈夫だった。9合目から8合目に至る耳成岩の下をトラバースする部分は、以前からの崩落部分は規模が拡大していた。また見逃せないのは、特に耳成岩直下の部分が20m 程の長さに渡って道にひび割れが入っていたこと。元からあったものか、新たに出来たものかは判らないが、今後の崩落の危険性について専門家からの評価を得ることが必要と思われる。

8合目に降りる部分はまだ少し雪が残っていた（上り下りには支障なし）。

8合目の湿地には、立入禁止のロープはまだ張られていなかった。作られた迂回路は湿地のそばだが、現時点で湿地が影響を受けているようには思われなかった。

8合目から下の登山道は、7合目から6合目に至る一部で笹のトンネルになる部分があったが登山道自体が笹で覆われているという状況にはなく、全般的に刈り払いで指摘するほどの問題は見当たらなかった。但し、また新たに笹の若芽が生え始めているので、こまめな刈り払いは今年も必要かと思われる。

赤倉登山道：7/9（火） 竹浪、（小堀）

車を赤倉神社前駐車場に置き、岩木スカイライン8合目まで送ってもらう。今回も通行料は無料。リフトに無料で乗せてもらい9合目へ。そのまま山頂へと向かう。山頂から赤倉登山道を下山しながら様子を把握。26番観音付近の様子を把握するために、赤倉キレットに降りて様子を観察したところ、26番観音付近の山体崩落が少しずつ進んでいるのが確認された。

9合目の山体をトラバースする部分は、足元が見えないほどツツジやカエデの枝が伸びている。刈り払いが必要だ。

大鳴沢源頭から9合目に直登する部分は笹が繁茂してきている。ここも刈り払いが必要である。

鬼の土俵から大鳴沢源頭に至る部分も、ところどころで足元が見えなくなるほど、植物が伸びてきている。伸びてきている小枝や草の刈り払いが必要だ。

総じて、赤倉登山道は人の手が入っておらず整備が必要である。

（イ） 岩木山環境保全協議会総会での提言

7月10日に岩木山環境保全協議会総会が開催されました。総会には、小堀会長と竹浪事務局長の二人が出席しました。今回も、登山道整備をはじめとした岩木山の保全・整備等に関して意見を述べました**（資料8）**。提出した意見に対してその場で回答があったものは以下の通りです。

1) 焼止避難小屋の掲示看板がはがれてしまった件については、地元業者に見積もり依頼中。

2) 入山ポストに投函された入山者のデータは以下の通り。

H30年1～12月　572通（H29年590通）、トータル人数1455名（H29年1805名）

H31年1～6月　122通（H30年140通）

3)弥生登山道8合目から9合目に至るトラバース部分で山体の崩れが拡大している件について、当会依頼の専門家による調査の了解を得た。

4)赤倉登山道の刈り払いについて、許可手続きが必要となることから、市が現状を確認して貸付を受けるかどうか検討する。

（ウ） 地質学者に依頼しての弥生登山道調査

7月1日の弥生登山道調査で確認された8～9合目トラバース部分の亀裂について、弘前大学の鄒青穎（ツォウチンイン）先生（農学生命科学部地域環境工学科助教・理学博士）に相談し、岩木山環境保全協議会の了解を得、7月24日に現地調査を行っていただきました（県自然保護課、津軽森林管理署に届出済）。当日は、鄒青穎（ツォウチンイン）先生と学生2名に竹浪事務局長が同行しました。

調査の結果、一帯の地盤のずれを確認し、「亀裂が拡大する可能性もあると考えられるため、亀裂の監視や注意看板の設置が望まれる。」とのコメントが文書で出されました**（資料9）**。当会は、この結果を関係機関に伝えました。

（エ） 8／8市観光課担当者との協議

7月10日の環境保全協議会総会で当会が提案し、議論が積み残しになった件について、8月8日に観光課担当者と話し合いを持ちました（小堀、金枝、藤原、竹浪）。その結果、以下のような対応がありました。総じて市の担当職員は山の経験と知識が不足なので、協議会関係者の情報交換や協議の場がますます重要になっているように思われます。しかし、一昨年とは異なり昨年は総会後一度も打ち合わせ会議等は持たれませんでした。

1）赤倉登山道26番観音付近が崩落の危険があるので、う回路を歩くようにお勧めする旨の喚起看板の設置をお願いした件では、「赤倉登山道はどこも管理している登山道ではないので、市に言われても困る。看板を貼ることぐらいはできるが、それを誰がやるかということになると自分たちは山はよくわからないので困ってしまう。」との回答だった。当方から、「岩木山環境保全協議会からの呼びかけで、危険個所を確認したらどうか」との提案をしたところ、その方向で進めてみようかということになった。しかし、その後の連絡はまだない。

2）鳳鳴避難小屋の入口の問題が話題となり、「頑丈なドアと言われても、自分たちも、弘前市内のどこの業者に頼めばいいのかよく分からない」とのこと。「そういう業者がいたら教えてほしい」と。

3）焼止避難小屋に灯油のストーブを置いてほしい、または置かせてほしい、との要望に対しては、「使用している人たちが良ければいいのではないか」とのことだった。

4）入山ポストに備え付けてある登山計画用紙の書式を外国人にも対応できるように、表示や計画書の様式が英文のものを作成すべき、との要請に対しては、「計画書の設置は弘前市ではやっていない」とのこと。警察署で置いているのかもしれないとの見解だった。以前の担当者から「市としてやりますとの話があったのだから」と主張したところ、警察に問い合わせたりしながら検討するとのことだった。しかし、置かれた様子はない（20年3月現在）。

5）トイレにしっかりとした募金箱を設置してはどうか、という提案に対しては、「設置はいいのだが、だれが回収に行くのか」ということが問題になった。リフト料金に上乗せしたらとの意見も出された。

6）スカイライン終点から軽装で登ってけがをする人などが出ていることから、リフト乗り場に、服装やトイレの注意看板を立ててはどうか、という提案に対しては、「どんな文言でどの程度の大きさで、という具体的なものを示してもらえれば助かる」とのことだった。

7）弥生登山道8合目から9合目に至る部分にひび割れが走っており、専門家の調査の結果、危険を喚起する看板の設置を奨める報告書が出されたことを踏まえ、看板を設置してはどうかとの要請に対しては、「津軽百年の森の団体が設置したのではないか」とのことだった。当会でそのような情報は得ていないし、団体同士お互いにどんなことをしているのかよく分からないので、連絡が取りあえるような工夫が必要だという認識で一致した。メーリングリストの活用など意見が出された。（しかし、その後の動きはない。）

8）赤倉登山道の整備について、市の方から「岩木山を考える会にお願いできないか」との要請があ

った。当方からは、基本的に市が責任を持つべきこと。協議会として集団で危険個所をチェックすることには協力したい旨答えた。市が各団体に登山道チェックの協力を呼びかければ、対応する団体はいると思うと述べたところ、その方式で一度やってみようか、ということになったが、その後まだ連絡はない。

9)岩木山パンフの改訂をするので、準備が出来た段階で連絡をよこすとのことだった。→9月に「岩木山登山マップの校正及び岩木山整備必要箇所の情報提供について」の依頼文書が届いた。当方で修正必要箇所をチェックし送付した。→当方が情報提供した弥生登山道2合目から4合目手前までの長い尾根の名称（大長峰）について、出典が明らかでないものは掲載すべきではないのではとの意見があったとの理由で、パンフへの掲載は今回見送りたいとの連絡が3月19日にあった。この「大長峰」の名称については、前事務局長三浦章男氏のブログ等で、地元の弥生部落の方から聞いたもので、昔から言い伝えられてきた呼称だとの記載がある。市には、地元の言い伝えを大事にして継承することが必要ではないか、との意見を述べた。今後、調査が必要と思われる。

② 岩木山に関する情報を会員、岩木山パトロール等と協力しながら市民に伝える

【まとめ】

（ア） 絶滅したと思われていた岩木山アオモリトドマツの再発見

10月30日、幹事の阿部、金枝、竹浪が岩木山スカイライン終点ターミナル建屋付近で、2015年に当会が最後の一本の枯死を確認し、絶滅したと思われていたアオモリトドマツを再発見しました**（資料10）**。その経過は以下の通りです。

【経過】

10月15日（火） 横浜国大の若松伸彦先生（全国のアオモリトドマツを研究している方）より、岩木山スカイライン8合目でアオモリトドマツ（オオシラビソ）を発見したとのメールが届く。

10月21日（月） 岩木スカイラインに、アオモリトドマツ調査のための通行許可取る。

10月22日（火） アオモリトドマツを確認しに岩木スカイライン終点へ（小堀、阿部、竹浪）。しかし見つからず。その旨を、若松先生に伝える。

10月23日（水） 若松先生より、より正確な場所が伝えられる。

10月28日（月） 岩木スカイラインに、アオモリトドマツ調査のための通行許可取る。

10月30日（水） アオモリトドマツを確認しに岩木スカイライン終点へ。アオモリトドマツ発見！（阿部、金枝、竹浪）。

11月 3日（土） 若松先生にアオモリトドマツの標本分析依頼。

11月 5日（月） 若松先生から標本のDNA分析了解の返事をいただく。

11月 7日（水） 阿部幹事が採取した岩木山と八甲田山のアオモリトドマツのエタノール漬の標本を若松先生に郵送する。

県自然保護課にもこの情報は伝えました。県とのやり取りで、アオモリトドマツの生育場所が特別保護地区に含まれないことが確認され、資料採取許可は不要とのことでした。但し周囲の刈り払いなどはしないでほしいとのことです。

若松先生からは、学術的には貴重な発見であるとの見解をいただいています。今後、この樹木のDNAが八甲田山のアオモリトドマツのDNAと同じものなのか異なっているものなのか、という研究が進められることになりそうです。当会としては今後特に何らかの対応をすることはせず、定期的に見守り続ける予定です。

（イ） 焼止、鳳鳴避難小屋について

焼止の避難小屋は、相変わらず、2階入口の庇が壊れたままになっています。鉄の梯子も外れたままで、木製の梯子が置かれていますが、誰もが使える状態にはなっていません。去年の大風で吹き飛ばされた「焼止避難小屋」の名称が記された看板の修復がなされず、そのままになっています。（2020年3月現在）

昨年の総会で、「鳳鳴避難小屋は、屋根のトタンがはがれたままで冬を越しました」と報告しましたが、昨年6月17日の登山道調査の折に鳳鳴避難小屋を見たところ、屋根の修繕は2018年中に行われたようです。報告が間違っていました。

2020年2月上旬の鳳鳴避難小屋は入口が深い雪で完全に覆われ、入れる状態ではありませんでした。

（ウ） 弥生いこいの広場の整備について

2016年3月に市が作った弥生いこいの広場の整備計画は止まったままです。2020年度のいこいの広場関係の予算は200万で、壊れた動物厩舎の改修にとどまるようです。今後の動向を見守ります。

（エ） 気象庁の地震計、傾斜計について

2017年に焼止避難小屋横に設置して破損した傾斜計は、10月に改めて百沢スキー場リフト終点施設付近に設置し直されました。11月に、仙台気象台より設置終了の連絡がありました。3月に現地を確認したところ、機器はリフト終点施設の真下、雪の当たらないところに設置されており、アンテナ等も安全な位置に立っていました。

（オ）後長根沢への新たな堰堤増設工事

2019年6月から上流域に新たに2機の堰堤の設置工事が行われています。当会として現場をまだ見ていません。

（カ）赤倉沢最終堰堤のかさ上げ工事による登山道の通行止め

活動日誌「9月15日頃」参照。

（キ）岩木山噴火や土砂災害のハザードマップと避難計画

2015年に作られたハザードマップをもとに、岩木山火山避難計画が2019年3月に策定されました。また、すでに土砂災害のハザードマップと避難計画も策定されています。幹事会ではこれらの資料に触れることから始めました。会議で検討したところ、避難経路の疑問点も出されました。

全国の火山活動が活発化しており、気候変動による土砂災害も相次いでいます。これらの情報は弘前市のホームページから見ることが出来ますので、岩木山周辺の方は目を通しておく必要があると思います。

③ ミズバショウ沼のススキの刈り払いを行い、ゴマシジミの保護を進める（立看板の設置）

【まとめ】

昨年からの懸案事項となっているゴマシジミ保護立看板設置は、岩木山観光協会の大きなご支援をいただき、5月20日、農村公園駐車場にて実施しました。当日は岩木山観光協会の小山事務局長と業者さん2名が作業を進め、当会からも会長以下4名が立会い、立派な看板が立ちました。**（資料11）**

今年の刈り払い作業は、7/10に行いました。6名が参加し、草刈り機2台で広範囲を実施できました。今年の刈り払いは、ワレモコウが生えている部分を意識的に残してみました。ワレモコウの一層の繁殖を期待したいと思います。

立看板は傷みを防ぐために冬期間は撤去保管しなければなりません。このことについて岩木山観光協会の小山事務局長に相談申し上げたところ、自分たちの方で業者に依頼して撤去・保管して下さるとの

ご援助を得ることができました。感謝にたえません。保管場所は公園に設置されている冬期間閉鎖のトイレです。今年のトイレ開放時には同時に看板設置作業を行うことになります。

④ その他の活動・課題

【まとめ】

（ア） 岩木山周辺の清掃活動の取り組み

今年も岩木山観光協会主催エコプロジェクトが7月と10月の2回実施されました。当会の花田幹事が7月14日に参加しました。

（イ） 他団体との連携しての取り組み

昨年の青森で行われた東北自然保護の集いの集会アピールの一つに、世界自然遺産白神山地の管理に関する議論を行政の組織だけで検討するのではなく、民間の自然保護団体も含めた議論にしていただきたい、という項目があり、この件について、2018年12月に、第39回東北自然保護の集い白神実行委員会の名前で県に申入れをしました。この申し入れに参加したのは、当会小堀会長と、青森の自然を守る連絡会議の鹿内博代表です。

2019年7月、白神山地世界遺産地域科学委員会が東北森林管理局で開催された折に、この要請が検討され、「白神山地の管理に関する意見交換会」を開催することになりました。

意見交換会は2020年1月31日（金）に弘前市民会館大会議室で開催されました。当会からは、小堀会長をはじめ4名が参加し意見を述べました。他団体の参加者からは、今回どうしてこのような会議がもたれるようになったのかは分からないが、意見を述べる機会を与えてくれて感謝したいとの発言がありました。「意見交換会」の概要は以下の通りです。

＜白神山地世界遺産地域の管理に関する懇談会＞

1月31日（金） 18時～20時 弘前市民会館大会議室にて開催

（主催者側）白神山地世界遺産地域連絡会議のメンバー20名ほど

環境省東北地方環境事務所、津軽森林管理署、西目屋自然保護官事務所、青森県、その他

（参加者）約30名

（概要）

1. 白神山地世界遺産地域の管理に関する概要説明　環境省西目屋自然保護官事務所
2. 生態系の保全についての説明　環境省西目屋自然保護官事務所
3. 入山利用等の状況についての説明　津軽森林管理署
4. 生態系の保全についての説明　県自然保護課
5. 質疑応答・意見（7名発言）

・入山禁止見直しの要望が2名から出された。

・クマゲラについて小堀、竹浪がきちんと調査すべきと発言。

・西目屋岩崎弘前線の整備に関する意見は阿部（文書提出）、竹浪。

・青森の鹿内氏から、青森、秋田で毎年開催の要望が出された。

（ウ） 県による渓畔林の伐採計画に対して

最近の気象変動が進む中で、土砂災害が各地で発生しています。これに関連して国が河川整備方針を打ち出しました。県がそれを受けて、県内の各河川の堤防内に生えている渓畔林の伐採を進めており、藤崎町ではフクロウが巣を作っている洞のある樹木も切られたという声が寄せられています。しかし、渓畔林の果たす役割もあることから、以下のように皆伐は避けてほしいとの意見が出されました。今後、会として知見を深めていく必要があります。

「川幅を削るためにダムを作ったのだろうか。河川敷は広くとるべきであった。狭いのを理由に渓畔林が流れを阻害し流木となって被害をもたらすので、伐木除根を行う(現在はやむを得ない)。

本来渓畔林には、水の浄化(板柳、五所川原では水道の水源)、川に腐植を与え①水中生物を育て(魚、水棲昆虫など)水の生態系の保持②水系に $Fe^{\#}$を与え($Fe^{\#}$+タンニン→水への溶解)③SiO_2(イネ科植物)を水に与える・・・という本来の役割があって、単なる放水路とは異なる。

伐木除根は水路の確保であって水系の回復とは程遠いものである。したがって、特に害をなす木の伐木はやむを得ないが、渓畔林の皆伐は避けたい。配慮を願いたい。」(阿部東)

(6) 会報を年3回発行する。(4月、9月、12月)

【まとめ】

今年も藤原幹事が編集長となり、紙面企画と原稿の割り振りを行いました。予定通り、78号(4/26)、79号(9/26)、80号(12/21)の三回発行しました。執筆依頼を幹事だけでなく、観察会参加者にも個別にお願いしています。小倉幹事が入力・レイアウトを担当しています。

会報の印刷発送作業は、毎回幹事が参画センターに集まり、みんなで行っています。

会報は現在、関連個人・団体に向け、160部を発行しています。

(7) 幹事会を月1回行う (会員の参加自由)

【まとめ】

会議は4月から毎月開催し、合計12回の幹事会が開催されました。議長は毎回幹事が交代で行っています。体調を崩して幹事会を欠席せざるを得ない方も出てきました。一方、会に協力したいと、幹事会に出席して下さっている会員の方がおられ、幹事会は平均7名程度の出席で開催されています。会員の皆さんの出席は大歓迎です。

会議場は桜大通りにある弘前市民参画センターを使わせてもらっていましたが、建物の老朽化でヒロロに移転したため、7月の幹事会から会場を弘前市百石町展示館に変更しました。

(8) ホームページ「岩木山を考える会」を継続する。

【まとめ】

ホームページを継続しています。葛西事務局が編集を担当しています。主に会報のアップですが、必要な情報を更新しています。アオモリトドマツを発見した若松先生はホームページを見ており、その情報から当会に連絡をよこすことが出来ました。ホームページをご覧ください。フェイスブックでは、行事の紹介などを中心に行っています。

ホームページ　　http://www.iwakisan.jp/

フェイスブックは、フェイスブックサイトから検索で見られます。

(9) 東北自然保護の集い第40回に参加する

【まとめ】

今回のつどいは、岩手県の自然保護団体が主幹となり、10月26日（土）～27日（日）に花巻市大沢温泉湯治屋で開催されました。40回の節目ということで、各県から40年のまとめ報告が求められました。そこで当会としての情報収集を行い、年表「自然保護の40年を振り返る」を作成しました**（資料12）**。

集いには、阿部東、阿部玲子、金枝壽孝、竹浪純の4人が参加しました。プログラムの内容と特徴的な議論は以下の通りです。青森県からの40年のまとめ報告は、「青森の自然を守る連絡会議」の田中洋一氏が発表しました。

＜第40回東北自然保護の集い in 岩手＞

テーマ:「東北の自然保護40年を総括する」

1日目（26日） 13:00開始、各県から自然保護40年の総括報告（青森からは田中洋一氏が報告（別紙）
15:30分科会（阿部・阿部玲・竹浪:自然再生エネルギーと自然保護に、金枝:外国人観光者への対応に参加）17:00終了
18:30懇親会

2日目（27日） 8:30開始、分科会の報告
10:00全体会議（実行委員会より「要望書」をユネスコと県知事に提出したいとの提起がされ各団体で議論することになった。）
11:30終了

◆特徴的な事項◆

・岩手大の学生が実行委員長となり運営され、古いこれまでの流れの中に若いエネルギーが注がれた集いとなった。次回は宮城東北大の学生にも参加してもらい若者同士の議論もしたいとの呼びかけがなされた。
・秋田県からの参加がなかったことは、今後の白神を巡る意見交換が途絶えることが危惧される。
・蝦夷柴犬でシカ被害を防ぐ取り組みが紹介された。
・再生可能エネルギーの風力施設や太陽電池パネルの耐用年数は20～25年。その後はがれきの山になる可能性がある。
・外国人観光客のマナーの問題で要望書を出すことにしたいという提案があった。
・日本からの情報も外国に発信するなど相互の交流が大事で、訪問客の7割が東南アジアからと言うことでは、看板は英語だけでなく、中国語、台湾語なども必要。

（10） 登山アンケートが実りある具体的な活動になるよう、岩木山パトロールや労山に協力してもらいながら進めていく。

特に具体的な動きを作ることはできませんでした。しかし、岩木山講座の観察会の中で、“下から岩木山に登ってみたい”との声が出されていましたので、今年の取り組みとして会員を対象の「岩木山登山」を企画したいと考えています。

以 上

第3号議案　2020年度活動方針（案）

（1）岩木山講座・観察会を一般市民参加のもと行う。
　　座学講座を検討する。
　　（当座の予定）
　　　5月9日（土）　第1回講座：百沢石切沢でスプリングエフェメラルを楽しむ
　　　6月14日（日）　第2回講座：弥生スキー場跡地観察会
（2）写真展「私の岩木山」を開催する。
　　2021年2月5～7日（金～日）を予定
（3）弥生スキー場跡地の観察と学習、調査活動を市民と協力し行い、長いスタンス
　　での岩木山研究の拠点とする。
（4）岩木山の自然調査を進める。
　　①観察会や調査会を市民と共に行い、結果を記録に残す。
　　②長平登山道の湿地調査を継続して行う
　　③種名同定依頼と指導（植物・動物・昆虫）
　　④会員による貴重な調査記録等を整理し次世代に伝える。
（5）岩木山の環境保全に寄与する。
　　①登山道等の整備を関係機構に働きかける。
　　②岩木山に関する情報を会員や岩木山環境保全協議会と協力しながら市民に伝える。
　　③ミズバショウ沼のススキの刈り払いを行い、ゴマシジミの保護を進める。
　　④岩木山登山をしながら環境保全の大切さを学ぶ。（会員対象）
（6）会報を年3回発行する（4月、9月、12月）
（7）幹事会を月一回行う（会員の参加自由）
（8）ホームページ「岩木山を考える会」を継続する。
（9）東北自然保護の集い第41回宮城大会に参加する。

第２号議案

2019年度 収支決算報告書

会計年度 ： 2019年4月1日～2020年3月31日

収入の部

（単位：円）

科目	予算	決算	差引増減	備考
前年度繰越金	818,465	818,465	0	2019年度会費 ¥27,000 2020年度以降 ¥19,000
会費	62,000	97,000	35,000	2019年度会費 ¥58,000 2020年度以降 ¥39,000
寄付金	0	50,000	50,000	6件 ¥33,000 2018年度分以前の会費 ¥17,000（13件）
利子	6	6	0	
雑収入	2,000	5,353	3,353	総会懇親会・8/25, 10/5, 11/17, 3/22岩木山講座参加費　残
	882,471	**970,824**	88,353	

支出の部

（単位：円）

科目	予算	決算	差引増減	備考
会議費	10,000	7,742	2,258	総会及び幹事会会場費
事務費	30,000	22,706	7,294	弥生ネット年会費（2019）・資料コピー代　他
会報費	70,000	50,886	19,114	3回分印刷・用紙・封筒・送料
郵送費	20,000	15,254	4,746	ハガキ代・総会通知（102通）
シンポジウム	30,000	11,374	18,626	岩木山講座保険料・資料印刷費
写真展	10,000	252	9,748	案内ハガキ
調査費	20,000	1,000	19,000	ガソリン代
予備費	692,471	30,593	661,878	東北自然保護の集い参加補助・ゴマシジミ看板謝礼等
支出合計	882,471	**139,807**	742,664	

差引収支　970,824 − 139,807 = 831,017

監査報告

監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

２０２０年　４月　１日

監事　土岐　修平　㊞

監事　佐藤　文猛　㊞

第４号議案

２０２０年度 予算 （案）

会計年度 ： 2020年4月 1 日～2021年3月31日

収入の部

（単位：円）

科目	決算	予算	備考
前年度繰越金	818,465	831,017	2020年度会費 ¥32,000（1名退会） 2021年度以降 ¥25,000
会費	97,000	52,000	2020年度会費納入予定額
寄付金	50,000	0	
利子	6	6	
雑収入	5,353	2,000	岩木山講座参加費
	970,824	885,023	

支出の部

（単位：円）

科目	決算	予算	備考
会議費	7,742	10,000	総会及び幹事会会場費
事務費	22,706	40,000	弥生ネット年度会費・資料コピー代　他
会報費	50,886	70,000	3回分印刷費・用紙・封筒・送料
郵送費	15,254	20,000	ハガキ代・総会通知
シンポジウム	11,374	40,000	資料作成費・岩木山講座保険料・経費
写真展	252	10,000	資料作成費
調査費	1,000	20,000	ガソリン代
予備費	30,593	675,023	東北自然保護の集い参加補助
支出合計	139,807	885,023	

第５号議案　役員体制(案)

会　長	小堀　英憲		
事務局	竹浪　純(事務局長)	葛西　拓美(庶務)	
	武尾　照子(会計)		
幹事	阿部　東	飛鳥　和弘	工藤　龍雄
	斎藤　真人	藤原　裕貴子	金枝　壽孝
	小倉　慎吾	荒川　修	
監事	土岐　修平	佐藤　文猛	